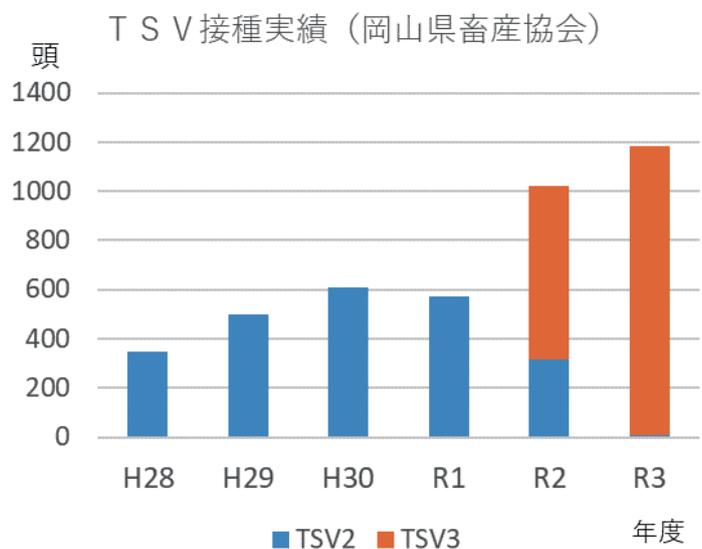


鼻腔粘膜ワクチン「ティーエスバイ3」[®]

(一社) 岡山県畜産協会 家畜衛生部

冬季や家畜の移動時等を中心に、呼吸器病の発生が心配されます。これまでも多くの呼吸器病予防ワクチンが販売されていますが、注射型ワクチンは抗体が産生されて効果が現れるまでに1か月近くかかります。一方、鼻腔粘膜ワクチンは注射による牛へのストレスもなく、局所免疫として効果を発揮するインターフェロンの放出や、粘膜面のIgA抗体の産生による速やかな効果が期待できるほか、移行抗体のある子牛にも使用可能です。

ティーエスバイ3 (TSV-3) は、従来のティーエスバイ2 (牛伝染性鼻気管炎、牛パラインフルエンザの予防) に、牛RSウイルスを追加して製造した生ワクチンです。健康な牛の片側の鼻腔内へ吸気に合わせて投与 (1回2ml) することにより、鼻腔内や気道の粘膜面での局所免疫と全身性免疫応答により、注射型のワクチンより牛伝染性鼻気管炎、牛パラインフルエンザ及び牛RSウイルス感染症に早期に対処し、呼吸器症状をより一層軽減することが可能です。



【ワクチンの特徴】

- ① 移行抗体のある新生子牛や妊娠牛にも安全に使用できます。
- ② ウイルスの主な感染部位である気道の粘膜免疫応答を刺激し、インターフェロン (ウイルスを攻撃する物質) とIgA (気道の粘膜面に分泌される抗体) の産生を誘導して速やかに免疫を付与します。
- ③ 更に、全身にIgG抗体を産生させることによって、少なくとも2~5カ月間の防御効果を維持します。

【実際の使用例】(裏面参照)

本ワクチンは、これまでの注射型ワクチンでは対応できなかった移行抗体の残る子牛 (出生直後から数カ月間) にも使用できるので、免疫能力が未熟な子牛の対策、ストレスのかかる時期 (離乳、徐角、去勢、移動など) の対策、病気が発生したときの緊急防疫対策などに使用します。特に若齢で子牛を導入し呼吸器病に悩まされている農場では、呼吸器病のコントロールに効果が期待されます。

また、注射型ワクチンと併用することにより、より充実した総合的なワクチン投与プログラムとなります。

(引用文献 ソエティス・ジャパン (株) TSV3パンフレット、BRDCサポート情報)

TSV[®]-3投与プログラムの例

出生直後から投与できるTSV[®]-3は、農場の呼吸器病発症リスクにあわせて柔軟なワクチンプログラムを組むことができます。



1 出生直後～注射型ワクチン投与までのRSウイルス対策



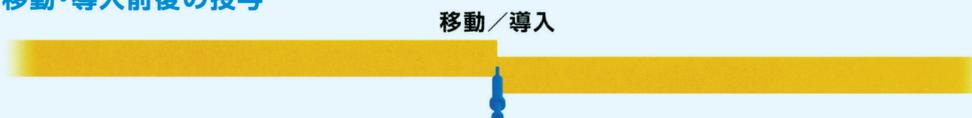
2 秋～春のRSウイルス流行時期にあわせた投与



3 肺炎多発時期にあわせた投与



4 移動・導入前後の投与



5 注射型ワクチンの効果が発揮されるまでの期間をカバー



利用者の声：和牛繁殖経営Nさん

以前は呼吸器病に加えてマイコプラズマ病も頻繁に発症していました。呼吸器病対策としてTSV3を生後1～2日で投与していますが、副作用はなく利用前より呼吸器病や下痢等の発生が遅くなり治癒も早くなりました。呼吸器病で困っている農場は、ぜひ使用してみてください。お勧めです。

鳥取県中央家畜市場の取組

TSV3ワクチンは投与後から素早く免疫応答がみられることから、輸送後の呼吸器病発症・重症化のリスク低減を期待し、市場では和牛子牛の更なる付加価値づくりのため、令和3年4月から上場子牛にTSV3ワクチンの投与を行っています。

※引用文献：肉牛ジャーナル（2022.7）